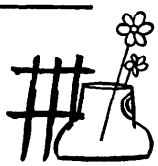
巻頭言



情報社会の課題

永井和夫†

今年，1984年は日本における情報社会の幕あけの年となるだろう．

通信回線の自由化と大規模VANに関する法案の年内成立がほぼ確実視されていること，それを見込んだ通信事業や大規模VANへの新規参入の活発な動き，通信衛星，気象衛星，放送衛星などの相つぐ打上げ，都市型CATV事業の着手，三鷹地区におけるINSの実験開始など，画期的な出来事の連続である．

これら，いわゆるニューメディアと言われるものの大きな特長は，それらの機器が会社または個人で単独に使われるのではなく，相互に接続され通信機能を介して情報交換が行われるところにある．いわゆる情報交換のネットワーク化であり，情報社会がこれまでの大型コンピュータを中心とした社会と本質的に異なる点と言えよう．

そして，このことは必然的にコンピュータや通信技術の専門集団だけでなく，一般の多くの人々がこのネットワークを通じて情報の交換に関与していくこととなり，そこに情報社会の大きな意義がある．

しかし，このような情報通信に関する本質的ともいえる変化は，情報の秩序ある処理と運用という大きな課題を私どもに投げかけることになる．

一般に所有する情報の質が高く量が多いほど，さらにその中で人々の共有する情報の量が多いほど，相互理解や意志疎通はスムーズに行われることになろう．その意味で情報社会は人間本来の目的にかなうものであり，社会生活の向上に大きな成果をもたらすものと期待される．

4年に一度開かれるオリンピックが世界各国の国際親善に大きな役割を果たしてきたことは良く知られているところである．特に今回のロスアンジェルスオリンピックにおいては，その実況が通信衛星を介しテレビを通じて世界各国に，しかもその家庭にまで直接とどけられ一層の効果をもたらした．通信衛星の実用化は，かつてのジェット機の出現以上に世界の時間距離を短縮し，しかもその影響は各家庭の茶の間にまで及んでいるのである．

このような国境を自由に越える情報ネットワークの実現は，おそらく近い将来国家という概念，国境という見えない壁―現代における最も強固な概念と考えられているが―を色あせたものにしていく上で非常に大きな役割を果たすことになるものと考える．

一方，情報の処理や運用が何らかの要因によってゆがめられたり，情報そのものに恣意的な加工修正が加えられるようなことがあれば，その影響は非常に恐ろしいものとなる．私どもはこのような恐ろしさをすでに幾度かの戦争の中で経験ずみである．しかも当時は情報の流通範囲がほぼ一国内に止まっていた点を考慮すれば，それが世界的規模で行われる場合の影響は想像以上のものとなろう．それだけに情報社会においては，秩序ある情報の処理と運用が重要な要件となる．

情報の価値は，情報の内容そのものによって定まるのではなくそれを受け取る個人，社会，国家などによってきまるものである．したがって秩序ある情報の処理と運用のあり方は，一義的に定まるものではなく多くの人々の英知を集めて検討されるとともに，常にそのアセスメントが行われることが重要と考えられ，その意味で永続的課題であろう．しかも情報ネットワークの規模が世界的に広がった現在においては，この検討も，世界的規模で行われる必要がある．

情報処理にたずさわる私どもも，この課題に関係する一員としてそれぞれの立場において積極的な役割を果たしていく時期にきていると考えるのである．

（昭和59年9月27日）

† 本会理事　日本国有鉄道北海道総局